

AIDS UPDATE

No.59 2005.10.11

広島大学病院
エイズ医療対策室

内線5581（輸血部長室）

Internet: www.aids-chushi.or.jp

エイズ動向委員会報告 新規エイズ患者と新規HIV感染者数

■ 少し前の情報になりますが、平成17年度4月4日より平成17年7月3日までに、感染症法に基づき報告された新規エイズ患者数は89件、新規HIV感染者数は171件でした。感染原因では、異性間性的接触によるエイズ患者は33件、同性間32件、静注薬物乱用によるもの1件、その他原因6件、原因不明は17件。またHIV感染者では、異性間が35件、同性間113件です。中国四国ブロックにおいては、感染者6名、患者5名が報告されています。

■ また、平成17年1月から6月末までの献血件数約270万件のうち、HIVの陽性件数は36件ありました。10万人あたりの陽性率を見てみると、2000年度1.14(人)から1.368(人)、1.418(人)、1.548(人)、2004年度には1.681人と着実に増加しているのがわかります。

■ HIV感染者やAIDS患者の数、献血で見つかる陽性者の割合は増加している一方で、保健所等におけるHIV抗体検査の件数や相談件数は横ばいの状態です。自主的に検査を受け、陽性と判明する場合だけでなく、病院へ受診したり入院したりして初めて陽性とわかるケースも多々あることを念頭におく必要があるでしょう。疑いのある症状を見つけたら、すぐに検査をすすめられるよう日頃から情報にふれておくことが重要です。

■ 上記のデータはインターネットでもご覧になれます。

【エイズ予防情報ネットー資料室】

<http://api-net.jfap.or.jp>

平成17年度 アクションネットワーク報告

□ 皆様こんにちは。朝晩涼しくなり、過ごしやすい季節になりました。今日のアップデートは先日当院で開催されたアクションネットワークについて書きたいと思います。

□ この会はエイズ予防財団主催のサンフランシスコ海外看護師研修の研修後の集まりとして年に一度全国各地で開催されています。昨年は仙台で行われました。今まで総計140名の看護師がサンフランシスコでHIV/AIDS研修を受けています。その当番が今年は当院にあたり、院内で研修に参加した看護部看護師(エイズワーキンググループのメンバー)と1年がかりで準備を行いました。メンバー全員で何度となく、ミーティングを開き、分担を細かく決め準備しました。その甲斐あって参加者も100名近く集まり、盛況な会になりました。研修会は一泊二日で、9月23日は講演会を企画し、多くの医療者に参加していただきました。

アクションネットワーク 講演

2005年9月23日・24日 於: 広大病院

1. 『中四国地方におけるHIV/AIDSの現状』

藤井 輝久 先生(広大病院輸血部)

2. 『看護の専門化に向けて今後の課題と展望

～アメリカの現状から学ぶ～』

塚本 容子 先生(北海道医療大学)

3. 『HIV即日検査におけるカウンセリングの役割』

鬼塚 直樹 先生(UCSF)

□ どの講演も内容の深いもので、大変有用な話ばかりでしたが、特に印象に残った塚本先生の話を紹介したいと思います。

□ 塚本先生は、現職の前はアメリカのサンフランシスコでナースプラクティショナーとして4年間診療されその後、保険会社のHIVプロジェクトメンバーをされていたそうです。その経験からアメリカの看護師についての現状と日本との違いについて話をされました。

□ 日本とアメリカでは医療制度が大きく違うので、単純に比べられるものではないのかもしれませんが、「学びたい」と努力する看護師には幅広い選択肢が用意されていると言われました。ナースプラクティショナーや専門看護師、スペシャリストなどさまざまな認定制度があり、多くの看護師が活躍されていると言われました。元来、アメリカでは雇用時に、「自分には何ができる」と自分を自分でアピールしなければ雇ってもらえないのだということでした。日本のように「出る杭はうたれる」という土壌とは全く異なった環境なのだと思います。塚本先生は、話の中で「アメリカの看護師は皆ファイター(戦う人)だった。日本は生ぬるい。自分の頭で考えて行動することができない人が多い」と言われていました。これはきつい一言ですが、当たっているなと思いました。

□ また、日本はまだ認定制度ができたばかりですが、認定看護師の評価に関する研究が少ないことを指摘されていました。看護師自身が、構造の評価、プロセスの評価(看護師の満足度)、アウトカムの評価(患者の評価)を行い、前進していく必要性を言われていました。

□ 塚本さんの講演の中にあっただけですが、私自身でも振り返りになったいい項目があったので、ここに書かせていただきます。

《個人(看護師)としてどのようなことを行うべきか?》

1. 自分の課題を明確にする
2. 与えられた課題を行うだけでなく、自らで課題をみつめ、それを解決するために実践していく
3. 自分の行っている活動をやりっぱなしではなく、評価をきちんと行う

□ これらはあらためてとても大切なポイントだと思いました。私も自分は何がしたいのか、何が足りないのか等考えながら日々の仕事にあたっていきたいと思います。

【Kawabe】

～お知らせ～

第59回国立病院総合医学会

<http://www.kure-nh.go.jp/kokubyou/index.html>
独立行政法人国立病院機構ネットワーク研究
HIV/AIDS外来クリティカルパス研修会(第4回)

日時: 2005年10月14日(金) 14:00 ~ 15:15

場所: 広島国際会議場

内容: シンポジウム

「外来を中心とするHIV診療への
クリティカルパス導入の試み」

◆ 次回は、東京の国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター(ACC)の看護師研修に1週間参加された、看護部小川良子さんの報告をお届けします。どうぞお楽しみに。



<ご意見募集>

「AIDS UPDATE」は今後も不定期に発行します。ご意見やご希望がありましたら輸血部(5581)までお寄せ下さい。

[TAKATA, OE]

nobotaka@hiroshima-u.ac.jp